戦後70年特集

戦争と松山～松山大空襲～

「紅蓮の炎に包まれ、松山の町が燃える。
火の海の中に白亜の天守閣が赤く映え、
逃げ惑う人びとの頭上に容赦なく
火を噴く焼夷弾と小型爆弾が
雨あられと降って来る」
（ある被災市民の声）

立花橋付近より焦土と化した市街地を望む

昭和20年7月26日23時30分頃から約2時間半、アメリカのB29128機が松山上空に飛来。松山城を取り巻くように投下された焼夷弾によって松山の街は炎に包まれました。この松山大空襲によって市民2551人の命が奪われ、無数の負傷者を出すなど、甚大な被害を受けました。また戦時中は食糧・物資の配給に加え、多くの市民が戦場に送られ、市民生活に大きな影を落としました。

昭和初期の松山市街

松山大空襲の被害

罹災戸数…1万4,300戸（全戸数の55%）
罹災者数…6万2,200人（全人口の53%）
死　　者……251人
行方不明者……8人
負傷者数……不明

『松山の歴史』（平成元年発行）より

戦争を物語る資料

市では、市民の皆さんからご提供いただいた、戦争を物語る遺品など貴重な資料を保管しており、戦争の悲惨さ、平和の大切さを後世に伝えるために毎年開催する「平和資料展」で展示しています。

両親宛て遺言状

東洋平和のため喜んで死ぬとつづられている。ただし検閲があったため形式的なもの

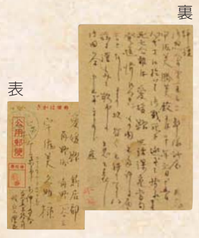
奉公袋

召集の際に兵士が持参する袋で、日ごろから用意

出征ののぼり

入営・出征は名誉なこととされ、家族、親族、地域の人などが万歳三唱して見送りました

戦死通知



戦場に送られた市民約8,000人が戦死したといわれています

千人針

入営・出征する男性の武運と無事を祈り女性たちが作ったお守り

防蚊手袋

南方作戦の進展とともにつくられた特別な被服

焼夷弾の残骸

松山に投下された焼夷弾は896㌔にものぼる

反戦ビラ

米軍機から市内にまかれたビラ

資料や情報をお寄せください

市では、戦時中などの資料や情報の収集を行っていますので、ご協力をお願いします。

お問い合わせは、市民参画まちづくり課☎948-6814・FAX934-3157へ

戦争の記憶　森慎一郎さん・保子さん夫妻

二度と子や孫には体験してほしくない

焼夷弾の破片を見せながら語る森さん夫妻

松山大空襲当時、共に小学生だった森慎一郎さん・保子さん夫妻（白水台四丁目）に当時の様子などを伺いました。

◆大空襲のときの様子は

保子さん　石手川の土手から見た雨あられのように降って来る焼夷弾と、火の海になった街の様子が忘れられません。

慎一郎さん　焼夷弾の破片が飛び散り、手に当たってけがをしました。

保子さん　焼夷弾の破片が無数に散らばり、中には漬物石に使えるくらい重いものもありました。

◆戦時中の体験は

慎一郎さん　フィリピンの戦地に行った私の叔父の遺骨が帰ってきたというので取りに行くと、かまぼこ板が1枚入っていただけで、祖父がすごく悲しんでいました。

保子さん　防空壕掘りと食糧となるいも作りが印象に残っています。掘った土を当時歩行町付近にあった東雲小学校から現在の青少年センター付近まで歩いて運びましたが、かなりの重労働で、勉強した記憶はほとんどありません。

◆後世に伝えたいことは

慎一郎さん　保管していた戦時中の資料を平和資料展などで展示したり、子どもたちに戦争体験を伝える活動をしました。子や孫の世代には二度と戦争の体験をしてほしくない、そう願っています。

戦争のない平和な社会を誓う

市戦争犠牲者平和祈念追悼式

献花する参列者

松山大空襲など戦争の犠牲となった市民を追悼するため7月26日、道後姫塚の平和記念広場で平和祈念追悼式が開催されました。

この追悼式は松山大空襲発生日に毎年同地で開催され、今年は遺族ら約100人が参列、実行委員会の中山淳会長は「多くの人々が犠牲になった悲惨な記憶を風化させることなく、恒久平和の実現を誓います」と式辞を述べました。

続いて野志市長が「私たちが享受している平和と繁栄は、数多くの戦争犠牲者の尊い命と、遺族の方々のたゆまない努力の上に築かれていることを忘れてはならない」と、そして遺族を代表し酒井清子さんが「素直で優しい子に育ってほしいと名付けられた「清子」という名は、戦死した父からもらった唯一の贈り物。辛いこともあったが、70年間、一筋の道を歩んで強く生きてこられたことを感謝したい」と、一度も会ったことのない父への思いを語り、それぞれ追悼のことばを述べました。

その後は、済美高校1年生の丹生谷紫月さんによる作文「未回収の遺骨」の朗読や献花などが行われ、参列者らは戦争犠牲者への追悼と恒久平和を願いました。

また式典終了後には、語り部活動や本追悼式の運営など、本市が進める平和行政に長年協力された個人・団体に対し野志市長から感謝状が贈られました。

感謝状を受け取る白石さん（左から二人目）と宮崎さん（右から二人目）

◆感謝状を贈られた個人・団体（順不同、敬称略）

宮崎七三子、白石世津子、市戦災遺族会、市遺族会、市郷友会連合会、市軍恩連盟連合会、世界連邦運動協会松山支部、市平和の語り部、愛媛シベリアを語る会